

令和3年度 一人一人の確かな学力のために

5年

		学年の目標	1学期末の児童の様子	3学期末の児童の様子
基礎・基本	国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の学期末テストで90点を合格とし、8割以上の児童が合格できることを目指します。そのために、定期的に漢字10問小テストを実施し、定着を図ります。 表現したいことをはっきりさせて、理由や例を用いて書いたり、発表したりできるように文章指導を行います。また、既習漢字を使って書く力を高めるように指導します。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の学期末テストで90点以上をとった児童は、6割ほどいます。間違えやすい漢字をピックアップして、正しい漢字を書けるようにするなど、引き続き定着を目指します。 発表する場を授業で設定し、理由や例を挙げたりして分かりやすく発表できた児童を奨励しています。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の学期末再テストで90点以上をとった児童は、7割ほどになりました。事前に練習をし、頑張った児童が多くいます。 発表したり交流したりすることで、児童は分かりやすく相手に伝えよう構成を考えるなどの工夫をするようになりました。
	算数	<ul style="list-style-type: none"> 計算ドリルを活用して繰り返し問題に取り組み、必ず答え合わせを行って間違いを直す習慣を付けるようにします。既習事項の定着を図ります。 単元のテスト直しを実施し、必ず内容が理解できるようにします。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中にも計算ドリルに取り組む時間を設定しています。より多く練習問題に取り組むことによって、学習に対する抵抗が減っています。7割の児童が、テストで平均70点以上をとるなど、少しずつ結果に反映されていますが、より多くの児童の結果に反映するようにします。 単元テスト直しを実施しています。取りこぼしのないように、正解が低かった問題は、再度全員で計算方法等を確認しています。既習事項の定着度が上がり、児童の学習への意欲に繋がっています。 	<ul style="list-style-type: none"> 練習問題に取り組むことに加え、問題を解決するために何が必要なのかを話し合うことを、重点的に指導をしました。その結果、計算ミスが減り、図形の構成に着目して問題を解くなど、テストの正答率が上がった児童が7割ほどになりました。 単元テストの直しも引き続き行っています。答えを直すだけでなく、どのように計算しているのかを解説することにより、次の単元のテストでは、既習事項を活用できるようになった児童が増えました。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ローマ字タイピングがスムーズに行えるようにします。そのために総合的な学習の時間に、タイピングの練習に取り組んで、楽しく習得できるようにします。 SDGsの観点で、教科の内容と照らし合わせながら多面的に物事を考えることができるようにします。 	<ul style="list-style-type: none"> ローマ字タイピングに慣れてきている児童が増えています。7割の児童が検索ワードをローマ字入力で入れられるようになっています。ホームポジションにも慣れるよう声掛けをしています。9割の児童が積極的に取り組んでいます。 	<ul style="list-style-type: none"> 9割の児童が、ローマ字入力で検索することができています。また、全員がパワーポイントを活用して資料作成をすることができました。各授業にも取り入れて、日常的に使えるようになってきました。
思考力・判断力	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題に対して、予想を立てて追及していく学習方法が身に付けられるよう、学習のめあてや課題をもち、振り返るという活動を継続的にを行います。また、自ら課題を見出し、見通しをもって解決することのできる児童を目指すために、授業の始めにめあてを明確するなど、自分の考えを言葉や文で表現できるようにします。 	<ul style="list-style-type: none"> 7割の児童が学習課題に対して積極的に取り組んでいます。しかし、課題によっては自力で解決できる児童がまだ多くありません。ペアや全体で交流し合う場を設けたり、理由をはっきり言えるようにしたりするなど、粘り強く考え解決できるようにします。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題を解決するための必要な情報を、ペアやグループで十分に話し合うことにより、自力解決できる児童が増えました。相手の意見に頷くだけでなく、質問やその意見に対しての自分の考えを伝えることを意識させて指導を重ねました。お互いの意見を聞いて、更に自分の考えを深める児童が増えました。 	
学習習慣	<ul style="list-style-type: none"> 話すこと、聞くことの大切さを意識化させるために、相手を意識して話したり、相手の話を受けて話すこと、話している人の方を向いて聞いたりメモをとったりすることを指導していきます。 毎日の家庭学習75分(15分×5年生)では、漢字・音読・読書・算数・自主学習に取り組めます。自主学習では、自己の課題を見つけ取り組むことができることを目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の話をしっかり聞くことができる児童が増えました(7割)。しかし、相手の方を向いて適切な声の大きさで話すことの難しい児童がいます。相手に伝えることの大切さを今後も指導していきます。 75分の家庭学習を達成出来る児童が6割程度です。自主学習の例を示すなどして、家庭学習への取り組み方を一緒に考えることで、習慣化を図り、内容の充実に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の顔を見て、適切な声で話すことができる児童が約7割ほどになりました。その中でも、伝えたいことを要約して話せる児童は、まだ2割ほどですので、継続して指導を行う必要があります。 75分の家庭学習を達成できる児童は、2学期とあまり変化はありませんでしたが、4割の児童が調べ学習を積極的に行っていました。その中でも、自分の苦手なところを復習するなど、自己解決する児童が更に増えてきました。自分に合った学習方法を考えて学習に取り組めるよう、引き続き内容が充実するように努めていきます。 	